

1 課題

配布された材料で、仕様および課題図に従って現寸図を作成し、木造り、墨付け、加工、組立を行う。

2 競技時間

現寸図作成 (40 分 : 1 日目)、木造り、墨付け、加工、組立 (3 時間 : 2 日目)

3 配布材料

- (1) 配布材料は、「スギ上小節程度」の芯去り材を予定。
- (2) 表面は、4 面自動かんな盤仕上げとする。

部材名	寸法又は規格 (mm)	数量	備考
束柱	60×60×600	1 本	
頭繋ぎ	60×60×500	1 本	
柱脚	45×45×600	2 本	
貫	42×60×400	1 本	
鼻栓	15×15×120	1 本	
釘	丸釘 38 貫・柱脚用	4 本	予備 2 本含む

4 会場に準備されているもの

名称	寸法又は規格 (mm)	数量	備考
作業床 (合板)	910×1820 厚 12	2 枚	
作業台	105×105×400 程度	2 本	
削り台	90×90×700 程度	1 本	栈木(60×15 程度) 丸釘 45 4 本を配布
現寸図用 シナベニヤ	A1 サイズ (594×841) 厚 5.5	1 枚	694×100、841×100 のシナベニヤを各 1 枚
計算用紙	A4	1 枚	

※ 作業エリアは、選手 1 人当たり 1820×1820 程度とする。

※ 配布材料用の養生材は各自準備する。

5 仕様

<作業順序>



(1) 現寸図作成

- 1) 課題図に従い現寸図を作成する。
- 2) 現寸図の位置は任意とし、シナベニヤに収まるようにする。
- 3) 芯墨は一点鎖線、隠れ線は破線で表記する。
- 4) 柱脚の勾配は3/10として、現寸図を作成する。
- 5) 所定の現寸図用ベニヤに鉛筆書きとする。(コンパス、シャープペン、ホルダー描きも可)
- 6) 線を引く道具は、さしがね、直定規、三角定規およびコンパスとする。
- 7) 正面図の柱脚と貫(右半分)、側面図の柱脚まわり、柱脚の展開図を作成する。
基本図の爰の長さを200 mmとして作成。(現寸図レイアウトを参照。)

(2) 現寸図提出

- 1) 選手は現寸図の作成が完了したら、審査員に手をあげて申し出て、競技番号と氏名を確認し、審査場所に運ぶ。(一次審査)
- 2) 現寸図提出後は、作業エリア・道具の片付けを行い、1日目の作業を終了する。
※ 現寸図は2日目の競技の際には、各競技エリアの所定の場所に戻される。

(3) 木造り

- 1) 作成した現寸図をもとに、柱脚の癖を加工する。
- 2) すべての材料の表面は、4面かんな仕上げとする。(鼻栓を除く)

(4) 墨付け

- 1) 柱脚は、四方転びとし、勾配は3/10とする。
- 2) 墨付けは、墨さしを使用する。なお、けびきした上に、墨入れを行なってはならない。
コンパス・鉛筆・シャープペン・ホルダーは、部材のマーキングのみの使用を可とする。
- 3) 全ての芯墨は、墨つぼで墨打ちとする。
- 4) 加工に必要な墨は、すべて付け残す。
- 5) 芯墨には、合印を入れる。
- 6) 頭繋ぎには、上端・下端に芯墨と合印を入れる。
- 7) 頭繋ぎには、柱脚芯を上端・下端に入れ、合印も上端・下端に入れる。
- 8) 柱脚には、4面に芯墨、合印を入れる。
- 9) 柱脚の上端木口には、芯墨を入れる。
- 10) 柱脚には、貫上端芯での高さを4面に入れる。
- 11) 貫の上端・下端には、芯墨と合印を入れる。
- 12) 貫の4面に、頭繋ぎの通り芯(振分芯)を入れ、合印も入れる。
- 13) 束柱には、芯墨と合印を4面全てに入れ、合印を入れる。
- 14) 束柱には、貫上端芯での高さを4面に入れる。
- 15) 各仕口部分の寸法は、課題図の通りとする。

(5) 加工

- 1) 加工の順序は任意とし、各部の取り合いは、課題図の通りとする。
- 2) 配布材料の木口は、捨て切り（鼻切り）をして使用する。
- 3) 頭繋ぎは、束柱に平ほぞ差しとする。
- 4) 頭繋ぎは、柱脚に蟻落とすとする。
- 5) 貫は、柱脚に平ほぞ差しとする。
- 6) 仮組みは 2 部材までとする。ただし、仮組の状態での削りは禁止とする。
- 7) けびきの使用については、けびきした上に、墨入れを行なってはならないが、墨付けの上から加工のため使用することは可とする。また、芯出しの際の使用も可とする。
- 8) 各部材の木口は糸面取りを施す。ただし、柱脚上部の木口の面取りは不要とする。
- 9) ほぞ及び鼻栓には面取り等の必要な処置を施す。

(6) 組立

- 1) 組立前は、作業スペースの整頓を行う。
- 2) 組立指定道具は、げんのう、木槌、かじや、コードレスドリル（インパクトドリル）、きり、まきがね（スコヤ）、さしがね、ゴムハンマー、釘しめ、タオル類とする。
- 3) 組立は、課題図の通りとし、順序は任意とする。
- 4) 木殺しを行うことは可とし、湿したウェスの使用についても可とする。
- 5) 柱脚・貫用の釘は、柱脚正面に打つ。（頭を残さず、打ち込みする。）

(7) 作品の提出

- 1) 組立が完了した選手は、審査員に手をあげて申し出て審査場所に運ぶ。（二次審査）
- 2) 提出後は作業エリアの清掃、片付けを行い、閉会式の準備をして待機する。

6 審査

- (1) 作業状況審査の対象時間は、競技開始から競技終了までとする。（1 日目、2 日目共通）
- (2) 一次審査は、現寸図作成終了・提出後に行う。
- (3) 二次審査は、作品完成・提出後に行う。

7 評価

作業状況審査、一次審査、二次審査とも減点法により行う。

- (1) 作業状況審査：服装、作業態度、道具使用状態
- (2) 一 次 審 査：作業状況、現寸図の精度
- (3) 二 次 審 査：作業状況、加工状態（技術度）、組立状態、完成度

8 道具（下記以外は使用できない。）

品名	寸法または規格	数量	備考
さしがね	250 mm×500 mm程度	適宜	150 mm×300 mm可
まきがね（スコヤ）	150 mm程度	1	自作不可、留め定規不可
自由がね	200 mm程度	適宜	事前固定不可
墨さし	竹・銅・プラスチック製等	適宜	自作可
墨つぼ		適宜	新型墨つぼ可
直定規	長さ 1m程度	1	
三角定規	300 mm程度、目盛なし	適宜	勾配定規は不可
けびき		1	事前固定不可（目盛がついているもの可）
かんな	平かんな	適宜	
の み	突きのみ叩きノミの長さは 360 mm以内とする	適宜	特殊ノミは不可
のこぎり		適宜	胴付きのこぎり可
コードレスドリル (インパクトドリルも可)	きりの本数及び太さは適宜	1	穴掘り、きり用
きり		適宜	釘下穴用
げんのう		適宜	ゴムハンマー、木槌可
かじや（パール）		適宜	
釘しめ	（ポンチ）	適宜	
タオル類		適宜	養生用使用可、ゴム系滑り止め可
かるこ・画鋏		適宜	現寸図の作成として使用可
電卓	計算機能だけのもの	1	使用時にリセット
時計	時計機能だけのもの	1	ストップウォッチ可
筆記用具	鉛筆・消しゴム	適宜	コンパス・シャープペン・ホルダー可
飲料		適宜	水分補給用

※ 作業台・削り台の上に、滑り止め（ゴム系等）を使用してもかまわない。

※ 削り台は材料の加工以外、墨付け等に使用してはならない。（木造りのみの使用とする。）

※ さしがね、まきがね（スコヤ）直定規等の工具に特定の寸法を記したものは使用できない。

※ 自由がね（自由スコヤ）、けびき、かんなの事前固定は禁止とする。

※ 作業エリアへの携帯電話やスマートフォンなど通信機器の持ち込みは禁止とする。

※ 使用しない工具または使用できない工具は、工具箱に入れ、作業エリア外に置く。

※ 競技中の道具の貸し借りは禁止する。

9 確認事項

服装について、作業服の長袖・半袖については、個人の判断にお任せします（ただし、ゼッケンは必ず身に付けておいてください）。また、閉会式は制服着用で出席してください。